

NUBIC知的財産情報開示

開示日： 2013年03月11日

各位

NUBIC知的財産情報の要約をお届けいたします。
尚、NUBICベンチャークラブ特別会員、一般会員にはすでにお知らせしています。

	NUBIC管理番号: <input type="text" value="2012000007"/>	整理番号 <input type="text" value="11640"/>	担当者 <input type="text" value="渡辺 麻裕"/>
表 題	<input type="text" value="急性呼吸窮迫症候群等による呼吸障害の治療薬"/>		
技術分野	<input type="text" value="化学・薬品"/>	<input type="text" value="食品・バイオ"/>	<input type="text"/>
適用製品	<input type="text" value="血管内皮透過性抑制剤"/>		
目 的	<p>敗血症、急性呼吸窮迫症候群、播種性血管内凝固症候群、アナフィラキシーは高頻度に見られる死亡率の高い疾病である。これらの疾患では、血管内皮細胞間の接着が障害され、血管内の水分が肺間質に漏出するため、呼吸障害をきたす。呼吸障害はこれらの疾患での直接的な死因となるが有効な治療法はない。 本発明は内皮細胞間接着を強化し、血管内皮透過性の抑制することにより呼吸障害の治療をめざす。</p>		
技術概要	<p>本発明は血漿中を流れる凝固因子の1つから単離したペプチドである。当該凝固因子タンパクは本ペプチドが切除されることにより活性化されるが、切り取られた本ペプチドの機能については知られていなかった。 発明者らは、本ペプチドが血管内皮の内皮構造を安定化させることを発見した。本ペプチドを培養血管内皮細胞に投与すると、細胞間の接着が強化された。培養血管内皮細胞を用いた敗血症・急性呼吸窮迫症候群モデルに本ペプチドを添加すると、細胞間接着は強化され、細胞間を通る物質の透過性は抑制された。本ペプチドは本来血中に存在し、凝固反応の過程で生じる不要な成分であり、血液凝固には影響しないと思われる。また、ヒトのアミノ酸配列を使用すれば、抗原性がないために繰り返し使用できる。これらの特徴から、本ペプチドは血管内皮の透過性亢進が原因の呼吸障害に対する有効な治療剤になると期待される。</p>		

技術移転等をご希望の場合は、下記事項をご記入の上、本用紙にてお申込みください。

(FAX, e-mail, 郵送いずれでも可。)

各担当コーディネーターからご連絡を差し上げます。

面談希望日時	<input type="text"/>		
(ふりがな) 氏 名	<input type="text"/>		
会社名	<input type="text"/>		
所 属	<input type="text"/>	役職	<input type="text"/>
電話番号	<input type="text"/>	FAX番号	<input type="text"/>
E-mail	<input type="text"/>		
連絡事項	<input type="text"/>		



【申込み・問い合わせ先】

日本大学産官学連携知財センター (NUBIC)

〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24 日本大学会館

TEL:03-5275-8139 FAX:03-5275-8328 E-mail:nubic@nihon-u.ac.jp